

猪苗代中学校体育館 閉館式 【式辞】

昭和39年、日本は高度経済成長期で東京オリンピックも開催された年です。この年、旧猪苗代中学校が開校しました。開校当初は全校生が1,077名おり、統合前の千里中と翁島中に、学年ごとに分かれて授業をしていました。そして次第に校舎も完成していきました。

体育館は、昭和40年11月10日に完成しました。この後のスライドの一番最初の写真が体育館完成も含めた新校舎の落成式をこの体育館で行っている貴重な写真です。

千人を超える生徒たちがびっしりと整列しているの分かります。シンボルになっている磐梯と猪苗代湖、そして白鳥の壁画は、昭和62年に描かれました。

完成から57年と8ヶ月、体育館では授業はもちろん、昼休みの遊びや部活動、様々な学年・学校行事が行われてきました。

日々の苦しい練習に取り組み、努力の汗や、悔し涙もこの体育館に染みこんでいると思います。また、遊びや各種行事でのみんなの笑顔を見守り一緒に喜んできてくれたと思います。悩み事や内緒話に耳を傾けたり、練習でのかけ声や合唱コンクールや集会での校歌の歌声に聞き入ってくれてきたと思います。この後のスライドでもいくつかの場面を紹介します。

そして今まで、9,600人もの先輩たちがこの体育館で卒業式を迎え、感動と感謝、そして新たな希望を持って旅立っていきました。親子だけでなく、お爺ちゃんお婆ちゃんから3代にわたってお世話になっている人もいます。人の数だけ、行事の数だけ、活動の数だけ思い出はできるものです。数え切れない思い出とがこの体育館で生まれてきたことでしょう。この後、この体育館で青春時代を過ごした二人の卒業生からもお話をいただけます。楽しみにしててください。そして皆さん一人一人が壁面に残してくれたメッセージも、体育館は喜んでくれていると思います。

新しい体育館で、これからの皆さんが楽しく明るく、時には苦勞しながらも真剣に一生懸命活動することを、この体育館は望んでいます。長い間見守り支えてくれた体育館に感謝とお別れの気持ちを送りたいと思います。ありがとうございました。そして、さようなら。

令和5年7月20日
猪苗代中学校長 横山泰久